

「ふるさと歴史教室」開講式 ～故郷を愛する心の育成～



5月18日(金)：田鶴浜小学校

田鶴浜地方の歴史や伝統文化などを教える「ふるさと歴史教室」。今年度で5回目を迎え、児童たちの中では人気が高い教室となっている。その要因は、田鶴浜地方史の会の上島進会長や会員のバイタリティ溢れる教え方。次から次へと話される言葉に、子どもたちの頭には、歴史の映像が映し出されているかのようで、一心に先生を見入っていた。歴史教室は、児童たちが故郷を愛する心を育てる機会となっている。

七尾市・金沢大学包括協定締結式 ～活力ある豊かな地域発展を目指して～

5月23日(水)：中島市民センター

金沢大学は、自治体と連携しながら、地域が抱える問題などを整理し、研究を通して解決策などを見いだす取り組みを行っている。

これまで「脳老化・認知症予防プロジェクト」や「里山の環境変化と里海環境に及ぼす影響評価」の研究グループが中島地区を中心に研究を進めてきた。今回の包括協定を結ぶことで、中島市民センターを研究拠点として活動し、これまで以上の研究成果が期待できることになった。

今後、七尾市は金沢大学との連携を強化し、活力ある豊かな地域発展を目指す。



世界農業遺産認定1周年！ ～能登の文化・祭礼を後世へ伝える～



6月11日(月)：七尾駅

昨年「能登の里山里海」が国内で初めて世界農業遺産に認定され、6月11日で1周年を迎えた。市内7つの駅では七尾市長やJR職員、七尾東雲高等学校の生徒たちが、駅利用者向世界農業遺産認定PR用ティッシュやパンフレットを配布。里山里海の重要性を伝え、生物多様性の保全に向けた機運を高める目的。「世界農業遺産を初めて聞いた」という学生が多く、さらなる周知活動が今後の課題。世界に認められた能登の文化・祭礼を後世に伝え、地域の愛着を深めるためのきっかけづくりになったのではないかと。



5月22日(火)：七尾市役所

原田とよ子さんが七尾市へ300万円、日本赤十字社へ500万円を寄付するため、七尾市役所を訪れた。原田さんは「91歳になっても、体が丈夫でいられるのは皆さんのおかげ。その感謝の気持ちを込め、人のために何かできればという思いで、寄付をしたいと思いました」と話した。七尾市に寄付されたお金は、原田さんの希望で、福祉全般に使用することになる。

七尾市・日本赤十字社へ寄付
 ↳感謝の気持ちを込めて



5月20日(日)：じたばた農園 (能登島野崎町)

親子8組約25人が生ゴミから堆肥を作るダンボールコンポストに挑戦。農業体験を通じて食育に理解を深めるのがねらいで、食べ残った野菜や魚などを堆肥にする仕組みを学んだ。子どもたちは生ゴミが土のような堆肥に変身すると聞いて、不思議そうに堆肥を触っていた。今日、作ったコンポストは家で食べ残ったごみを入れていく。3カ月後には堆肥が完成し畑に使用する予定。参加者は野菜を作る楽しみが増えてうれしそうだった。

エコに挑戦 じたばた農園
 ↳生ごみ大変身



5月29日(火)：自宅 (佐々波町)

100歳を迎えた今でも3度の食事は欠かさず、好き嫌いが無い元気な系といさん。若いころから農業を営み、50歳を過ぎてから魚を売る行商も行ってた。長男の正明さんは「昔、重い荷物を持ち1日に20キロ以上歩くこともあり、今でも本当に足腰が強い。父が出稼ぎなどで家を空けていたので、父親代わりとして、厳しい母でした」と思い出を話す。素敵な笑顔で対応してくれた系といさん。これからも元気で長生きしてください。

百歳誕生日おめでとうございませう
 ↳藪下系といさん



5月27日(日)：能登観音崎灯台

地元にある「能登観音崎灯台」に感謝をしながら、地域の人たちのつながりを保つ目的で開催された崎山灯台まつり。イベントでは、昨年と今年の絵画コンクールで最優秀賞に選ばれた七尾東部中学校の新見里さんと北星小学校の小畑玲奈さんが1日灯台長に任命された。また、地元の鶴浦豊年太鼓の演奏も行われ、地域の人たちは温かい拍手を送っていた。「能登観音崎灯台」は、地域のシンボルとして航海の安全の光を今後もともし続ける。

崎山灯台まつり
 ↳地域のシンボルに感謝



6月11日(月)：市長応接室

太鼓打ちの普及に努める七尾太鼓打連盟の代表4人が七尾市長を訪問。6月10日に開催したチャリティーコンサートの収益金の一部を東日本大震災の義援金として手渡した。5年前の能登半島地震で福島県からも支援をいただき、その恩返しにとコンサートを企画。「今後は南相馬市の太鼓打ち団体と交流を深めたい」と葛原代表は意欲的に話した。これからも助け合いの心で被災地への支援が続くよう期待したい。

太鼓チャリティーコンサート収益金を寄付
 ↳助け合いの心で復興を支援



6月3日(日)：ナナオベイマリオン (津向町)

海の楽しさや海のことを知ってもらう目的で開催されたマリオンフェスタ。家族連れやマリオンレジャー愛好家など、多くの人たちが詰め掛けた。実行委員会は、これまで行ってきたマリオンレジャーの体験ばかりではなく、七尾湾で獲れる魚貝類を使った料理教室など、海をテーマに幅を広げた企画を開催。参加者は「貴重な体験ができ、こんな体験がたくさんあればいいのに。子どもたちは大喜びです」と充実感に満ちた笑顔で話してくれた。

第4回マリオンフェスタ
 ↳貴重な体験に参加者は満面の笑み